



プロキシ回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant

Cisco IP Manager Assistant (Cisco IPMA) の機能を利用すると、マネージャとアシスタントが一層効果的に連携できるようになります。Cisco IPMA は、プロキシ回線サポートと共有回線サポートの2つのモードの操作をサポートしています。Cisco IPMA サービスは、クラスタ内でプロキシ回線サポートと共有回線サポートの両方を同時にサポートします。共有回線サポートのある Cisco IPMA の詳細については、[第3章「共有回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant」](#)を参照してください。

IPMA の機能は、コールルーティング サービス、マネージャ用の電話機機能拡張、および、主にアシスタントが使用するアシスタント コンソール インターフェイスで構成されます。

コールルーティング サービスは、マネージャ宛のコールを代行受信し、事前設定済みのコールフィルタに基づいて、特定のアシスタント、マネージャ、またはその他の宛先にルーティングします。コールルーティングは、マネージャが動的に変更できます。たとえば、電話機のソフトキーを押すことによって、すべてのコールをアシスタント宛にルーティングしたり、コールのステータスを受信したりできます。

Cisco CallManager のユーザは、マネージャとアシスタントで構成されます。マネージャ宛のコールは、コールルーティング サービスによって代行受信され、適切な宛先にルーティングされます。アシスタントユーザは、マネージャに代わってコールを処理します。

この章では、Cisco IPMA に関する次の情報を提供します。

- [Cisco IPMA の概要 \(P.2-2\)](#)
- [プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA のシステム要件 \(P.2-7\)](#)
- [インタラクションおよび制限事項 \(P.2-8\)](#)
- [Cisco IPMA のインストールと有効化 \(P.2-11\)](#)
- [プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA の設定 \(P.2-12\)](#)
- [Cisco IPMA のマネージャおよびアシスタントへの情報提供 \(P.2-36\)](#)
- [関連項目 \(P.2-38\)](#)

Cisco IPMA の概要

次の項では、Cisco IPMA の機能について説明します。

- [Cisco IPMA アーキテクチャの概要 \(P.2-2\)](#)
- [Cisco IPMA のデータベースアクセスアーキテクチャ \(P.2-5\)](#)
- [マネージャのインターフェイス \(P.2-5\)](#)
- [アシスタントのインターフェイス \(P.2-5\)](#)
- [ソフトキー \(P.2-6\)](#)
- [マネージャおよびアシスタント管理用のインターフェイス \(P.2-6\)](#)

Cisco IPMA アーキテクチャの概要

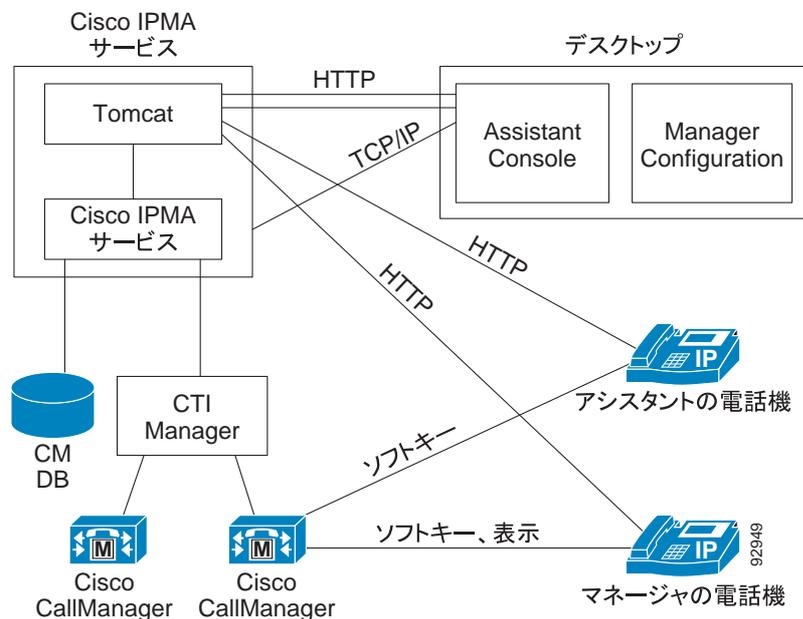
Cisco IPMA の機能アーキテクチャは、Cisco IPMA サービス、アシスタント コンソール インターフェイス、および Cisco IP Phone インターフェイスで構成されています。[図 2-1](#) を参照してください。

Cisco IPMA サービスは、Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータで定義済みの CTI ルート ポイントに到着したコールをルーティングします。[P.2-21](#) の「[Cisco IPMA のサービス パラメータの設定](#)」を参照してください。

追加情報

[P.2-38](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

図 2-1 Cisco IPMA のアーキテクチャ



Cisco IPMA サービス

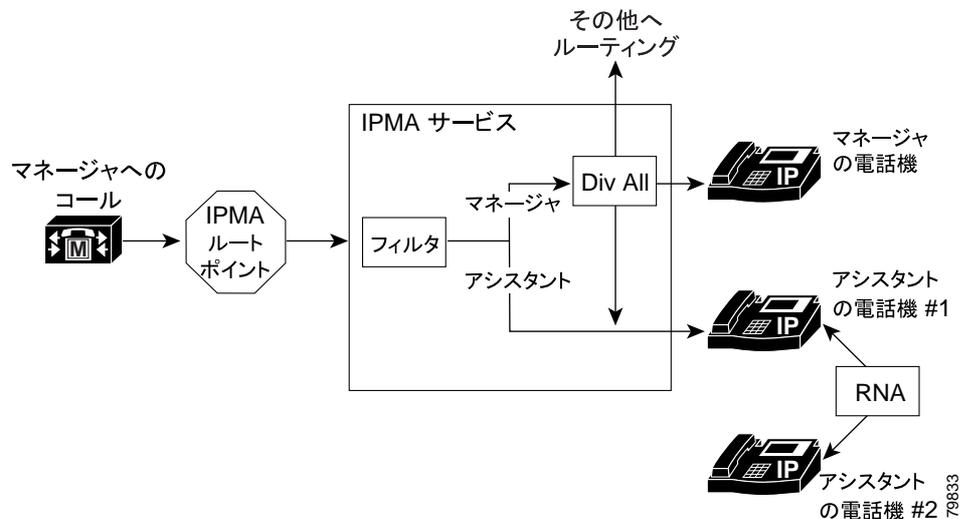
Cisco IPMA サービス（サーブレット）は、Cisco Tomcat がロードします。Cisco Tomcat は、Cisco CallManager のインストール時にインストールされます。

Cisco IPMA サービスは、クラスタ内のすべての Cisco CallManager サーバにインストールされます。インストール後、IPMA を自動的に起動する Serviceability から、管理者がサービスをアクティブにします。IPMA サービスは起動時に、これがクラスタ全体のサービスパラメータ Primary IPMA Server (Primary) IP Address で設定されている IPMA サーバの 1 つかどうかを確認します。設定されている場合、IPMA サービスはアクティブな Cisco IPMA サービスになろうとします。現時点では、Cisco CallManager クラスタがサポートできるアクティブな Cisco IPMA サービスは 1 つだけです。

Cisco IPMA サービスは、次のタスクを実行します。

- マネージャの電話機で実行される HTTP サービスをホストする。
- マネージャが設定に使用する Web ページをホストする。
- マネージャ宛の着信コールにフィルタを適用するための、ルーティング ロジックを保持する。[図 2-2](#) を参照してください。
- サードパーティ コール制御用の Cisco CTIManager を通じて、Cisco CallManager クラスタと通信する。Cisco IPMA が必要とする CTI 接続は、クラスタ内の全ユーザに対して 1 つだけです。
- データベースのデータにアクセスする。
- Assistant Console アプリケーションをサポートする。

図 2-2 プロキシ回線サポート用の Cisco IPMA のルーティング ロジック

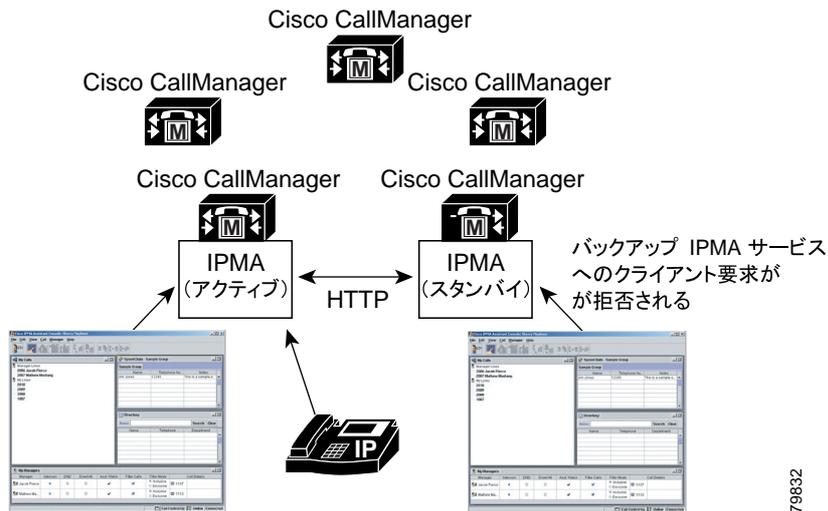


Cisco IPMA には、冗長化のためのサポートが用意されています。冗長化を実現するには、同じクラスタ内に 2 番目の Cisco IPMA サービスを設定する必要があります。

IPMA は、アクティブ/スタンバイ サーバ モデルを利用して冗長化を実装します。常にアクティブのまま、すべての Assistant Console アプリケーションと電話機にサービスを提供する IPMA サーバは 1 台だけです。他のサーバはスタンバイ モードになり、アクティブなサーバの障害を検出します。障害を検出した場合は、バックアップサーバが機能を引き継ぎ、アクティブなサーバになります。障害発生時にアクティブになっていた接続は、すべて新しいサーバ上に復元されるため、ユーザに対するサービスは中断することなく続行されます。

アクティブなサーバに障害が発生した場合、Assistant Console アプリケーションは、バックアップサーバに自動的にフェールオーバーします。アプリケーションが障害を検出する間隔は、Cisco IPMA Assistant Console Heartbeat Interval サービス パラメータ (P.2-21 の「Cisco IPMA のサービス パラメータの設定」を参照) によって決まります。ハートビート間隔を小さくすると、フェールオーバーまでの時間が短くなります。図 2-3 を参照してください。

図 2-3 Cisco IPMA の冗長化



Cisco IPMA サービスには、サービスに対する不正アクセスを防止するための組み込みセキュリティが含まれています。アシスタント コンソールで収集されたユーザ ID とパスワードは、ネットワークを通じて送信される前に暗号化されます。アシスタントを装う不正ユーザは、Assistant Console によってブロックされます。

アシスタント コンソール インターフェイス

Cisco IPMA は、次のマネージャ用およびアシスタント用アシスタント コンソール インターフェイスをサポートしています。

- Assistant Console (コール制御、ログオン、アシスタントの初期設定、マネージャ宛コールアクティビティの監視、キーボードショートカットに使用される)
- Manager configuration (すべてのコールの転送先、即時転送先、およびフィルタの設定に使用される)

管理者は、Cisco CallManager Administration の End User Configuration を使用して、マネージャ用およびアシスタント用に Cisco IPMA を設定します。P.2-6 の「マネージャおよびアシスタント管理用のインターフェイス」を参照してください。

Cisco CallManager により、Cisco IPMA のすべてのマネージャ用機能が Cisco IP Phone を通じて利用できるようになります。ただし、Manager Configuration はブラウザを使用して実行します。アシスタントは、Cisco IP Phone と Assistant Console アプリケーションを使用します。P.2-5 の「マネージャのインターフェイス」および P.2-5 の「アシスタントのインターフェイス」を参照してください。

Cisco IPMA の機能の使用方法の詳細については、『Cisco IP Manager Assistant ユーザ ガイド』を参照してください。

Cisco IP Phone のインターフェイス

アシスタントはソフトキーを使用して、またマネージャはソフトキーおよび Cisco IP Phone Services ボタンを使用して、Cisco IPMA の機能にアクセスします。Cisco IPMA Phone の機能を使用する方法の詳細については、『Cisco IP Manager Assistant ユーザガイド』を参照してください。

P.2-5 の「マネージャのインターフェイス」および P.2-5 の「アシスタントのインターフェイス」を参照してください。

Cisco IPMA のデータベース アクセス アーキテクチャ

Cisco IPMA のすべての設定情報は、データベースに格納されます。マネージャまたはアシスタントがログインすると、IPMA サービスは、そのマネージャまたはアシスタントに関する全データをデータベースから取得し、メモリに保存します。

マネージャのインターフェイス

マネージャの電話機からは、Manager Configuration を除くすべてのマネージャ用機能を利用できます。Cisco IPMA は、Cisco IPMA サービスの開始時にマネージャを自動的に IPMA サービスにログインさせます。

マネージャは、選択済みのアシスタントを Cisco IP Phone Services ボタンを使用して変更できます。

マネージャは、Cisco IP Phone のソフトキーを使用して、Cisco IPMA 機能の Assistant Watch、Do Not Disturb、iDivert、Intercept Call、および TrnsfVM にアクセスします。

Assistant Watch、Do Not Disturb、Divert All Calls、および Filtering の状態は、Cisco IP Phone の Status Window に表示されます。

フィルタリングを有効にして、フィルタ モードを選択するには、Cisco IP Phone Services ボタンを使用します。フィルタを設定するには、Manager Configuration を使用します。アシスタント コンソール上で Manager Configuration にアクセスするには、Web ブラウザを使用します (P.2-37 の「マネージャの設定」を参照してください)。

詳細については、『Cisco IP Manager Assistant ユーザガイド』を参照してください。

アシスタントのインターフェイス

アシスタントは、Assistant Console アプリケーションと Cisco IP Phone を使用して Cisco IPMA の機能にアクセスします。アプリケーションである Assistant Console は、応答、即時転送、転送、保留などのコール制御機能を提供します。アシスタントは、Assistant Console を使用して、ログオンとログオフ、アシスタントの初期設定、およびマネージャの初期設定に使用する Manager Configuration ウィンドウの表示を行います。

Assistant Console はアシスタントの回線およびマネージャのプロキシ回線を表示します。プロキシ回線には、アシスタントの Cisco IP Phone に表示される電話回線を指定します。アシスタントはプロキシ回線を使用して、マネージャ宛のコールを管理します。プロキシ回線の設定については、P.2-31 の「アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定」を参照してください。

アシスタントが Assistant Console からログインすると、プロキシ回線の iDivert ソフトキーと TrnsfVM ソフトキーがアクティブになります。詳細については、『Cisco IP Manager Assistant ユーザガイド』を参照してください。

ソフトキー

Cisco IPMA 機能は、Cisco IP Phone で、iDivert、TrnsfVM、および Do Not Disturb などのソフトキーをサポートしています。ソフトキーは、コールの状態に基づいて表示されます。たとえば、TrnsfVM は、アクティブなコールが存在しない場合には表示されません。

Cisco IPMA は、次のソフトキー テンプレートをサポートしています。

- Standard IPMA Manager : プロキシ モードのマネージャをサポートします。
- Standard IPMA Shared Mode Manager : 共有モードのマネージャをサポートします。
- Standard IPMA Assistant : プロキシモードまたは共有モードでアシスタントをサポートします。

さらに、Standard User テンプレートを使用すると、保留やダイヤルなどのコール処理ソフトキーを利用できるようになります。管理者は、マネージャやアシスタントが使用するデバイスに対して、適切なソフトキー テンプレートを設定してください。



(注)

デフォルト プロセスでは、デバイスに対してコール処理ソフトキー テンプレートが割り当てられます。

管理者は、Cisco CallManager に含まれている標準のソフトキー テンプレートを使用するほかに、カスタム ソフトキー テンプレートを作成することもできます。ソフトキー テンプレートを Cisco IPMA デバイスに関連付ける場合や、カスタム ソフトキー テンプレートを作成する場合は、Cisco CallManager Administration の Softkey Template 設定を使用します。『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「ソフトキー テンプレートの設定」を参照してください。

マネージャおよびアシスタント管理用のインターフェイス

管理者は、Cisco CallManager Administration の End User Configuration ウィンドウを使用して、マネージャおよびアシスタントを設定します。また、マネージャ用およびアシスタント用デバイスの選択、マネージャ用およびアシスタント用着信インターコム回線の選択、およびアシスタントの電話機上のマネージャ用にプロキシ回線の割り当てを行います。

P.2-27 の「マネージャおよびアシスタントの設定」を参照してください。

プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA のシステム要件

プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA が動作するには、次のソフトウェア コンポーネントが必要です。

- Cisco CallManager 5.0
- Microsoft Internet Explorer または Netscape Navigator :
 - Cisco CallManager Administration を使用した Cisco IPMA 管理では、Microsoft Internet Explorer (IE) 6.0 以降または Netscape 7.1 以降をサポートしています。
 - Assistant Console アプリケーションのインストール プログラムでは、Microsoft Internet Explorer (IE) 6.0 以降または Netscape 7.1 以降をサポートしています (詳細については、[P.2-8](#) の「[インタラクションおよび制限事項](#)」を参照してください)。
 - Assistant Console アプリケーションでは、Microsoft Windows 2000 および Microsoft Windows XP をサポートしています。
 - Manager Configuration アプリケーションでは、Microsoft Internet Explorer (IE) 6.0 以降をサポートしています。
- Bulk Administration Tool (BAT) (複数のマネージャとアシスタントを一括で追加する場合)

Cisco IPMA をサポートしている SCCP 電話機は、次のとおりです。

- Cisco IP Phone モデル 7970/71
- Cisco IP Phone モデル 7960/61
- Cisco IP Phone モデル 7940/41 ([P.2-10](#) の「[制限事項](#)」を参照してください)



(注)

Cisco IPMA を実行する Cisco IP Phone モデル 7960/61 と 7970/71 には、Cisco モデル 7914 拡張モジュールが備わっています。

Cisco IPMA は Cisco CallManager と同じサーバに自動的にインストールされるため、サーバを別途用意する必要はありません。

インタラクシオンおよび制限事項

次の各項では、プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA におけるインタラクシオンおよび制限事項について説明します。

- [インタラクシオン \(P.2-8\)](#)
- [制限事項 \(P.2-10\)](#)

インタラクシオン

次の各項では、プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA が Cisco CallManager アプリケーションおよびコール処理とどのように通信するかを説明します。

- [Bulk Administration Tool \(P.2-8\)](#)
- [エクステンション モビリティ \(P.2-8\)](#)
- [レポート ツール \(P.2-9\)](#)
- [Multilevel Precedence and Preemption \(MLPP\) \(P.2-10\)](#)
- [time-of-day ルーティング \(P.2-10\)](#)

Bulk Administration Tool

Bulk Administration Tool (BAT) を使用すると、管理者は多数のユーザ (マネージャとアシスタント) を一度に追加できます。ユーザを 1 人ずつ追加する必要はありません。詳細については、『*Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザガイド*』を参照してください。

追加情報

[P.2-38 の「関連項目」](#) を参照してください。

エクステンション モビリティ

Cisco CallManager エクステンション モビリティの機能を使用するマネージャは、同時に Cisco IPMA も使用できます。マネージャは、エクステンション モビリティを使用して Cisco IP Phone にログインし、Cisco IPMA サービスを選択します。IPMA サービスが起動すると、マネージャはアシスタントおよびすべての IPMA 機能 (コールフィルタリングおよびサイレントなど) にアクセスできます。

IPMA とともに Cisco CallManager エクステンション モビリティにアクセスするには、管理者が Cisco CallManager Administration の Cisco IPMA Manager Configuration ウィンドウ (End User Configuration ウィンドウからアクセス) で、Mobile Manager チェックボックスをオンにします。[P.2-28 の「プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て」](#) を参照してください。デバイス プロファイルの設定の詳細については、『*Cisco CallManager アドミニストレーションガイド*』の「新規ユーザデバイス プロファイルの設定」を参照してください。Cisco CallManager エクステンション モビリティの詳細については、[第 1 章「Cisco CallManager エクステンション モビリティ」](#) を参照してください。

レポート ツール

Cisco IPMA は、静的な情報を CDR Analysis and Reporting (CAR) ツールで提供し、設定に対する変更の要約を変更ログで提供します。ここでは、次のレポート ツールについて説明します。

CDR Analysis and Reporting

Cisco IPMA は、マネージャとアシスタントのコール完了統計、およびマネージャとアシスタントのインベントリ レポートをサポートしています。コール完了統計は、CDR Analysis and Reporting (CAR) ツールでサポートされます。インベントリ レポートは、Cisco CallManager Serviceability でサポートされます。詳細については、『Cisco CallManager Serviceability システム ガイド』、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』、および『CDR Analysis and Reporting Administration Guide』を参照してください。

IPMA_ChangeLog

管理者は、Manager Configuration または Assistant Configuration に対する変更の要約を確認できます。マネージャは、URL を参照して Manager Configuration にアクセスすることで、デフォルト値を設定できます。

アシスタントは Assistant Console からマネージャのデフォルト値を変更できます。



(注)

URL および Manager Configuration については、『Cisco IP Manager Assistant ユーザ ガイド』を参照してください。

設定値が変更されると、その情報は ipma_changeLogxxx.log というログ ファイルに送信されます。このログ ファイルは、IPMA サービスを実行するサーバ上の次の場所にあります。

```
file get activelog tomcat/logs/ipma/log4j
```

管理者は、Serviceability Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にある Trace Collection Tool を使用して、サーバからこのログ ファイルをダウンロードできます。詳細については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

このログ ファイルには、次のフィールドが含まれています。

- LineNumber : ログ ファイル内に変更情報がある回線。
- TimeStamp : 設定値が変更された時刻。
- for Manager/Assistant : 変更が、マネージャまたはアシスタントのどちらに対するものであるかを示す。
- for Userid : 変更対象となったマネージャまたはアシスタントのユーザ ID。
- by Manager/Assistant : 変更が、マネージャまたはアシスタントのどちらによって実施されたかを示す。
- by Userid : 変更を実施したマネージャまたはアシスタントのユーザ ID。
- Parameter Name : 変更された項目 (転送先電話番号など)。
- Old Value : 変更前の設定値。
- New Value : 変更後の設定値。

ログ ファイル内の情報はカンマで区切られているため、管理者は、Microsoft Excel などのスプレッドシート アプリケーションを使用してログ ファイルを開くことができます。ログ ファイルの内容を Microsoft Excel アプリケーションで保存するには、次の手順に従います。

手順

-
- ステップ 1** Microsoft Excel アプリケーションを起動します。
- ステップ 2** ConfigChange*.log ファイルを開くには、**File > Open** を選択します。
- ステップ 3** Original data type を選択し、ファイルの種類を **Delimited** にして、**Next** をクリックします。
- ステップ 4** Delimiters として **Comma** を選択し、**Next** をクリックします。
- ステップ 5** 上の操作が完了したら、**Finish** をクリックします。
-

Multilevel Precedence and Preemption (MLPP)

次に、プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA と MLPP とのインタラクションについて説明します。

- IPMA は、コールの処理時にコールの優先順位を保存します。たとえば、アシスタントがマネージャにコールを転送する際、IPMA はコールの優先順位を保存します。
- 優先コールのフィルタリングは、他のすべてのコールと同じように行われます。コールの優先順位は、コールがフィルタリングされるかどうかには影響を与えません。
- IPMA はコールの優先順位を認識しないので、Assistant Console でコールの優先順位について追加のインジケータを送信することはありません。

time-of-day ルーティング

time-of-day ルーティングは、コールが行われた時刻に基づいてコールを別の場所にルーティングします。たとえば、営業時間の間は、コールをマネージャのオフィスにルーティングし、営業時間が終了したらボイスメール サービスに直接ルーティングします。

time-of-day ルーティングで使用されるタイム スケジュールと時間帯は、パーティションによって指定されます。IPMA パーティションおよび IPMA コーリング サーチ スペースのパーティションは、time-of-day ルーティングをサポートします。

Time-of-Day ルーティングの詳細については、『Cisco CallManager システム ガイド』の「Time-of-Day ルーティング」を参照してください。

制限事項

Cisco IPMA には、次の制限事項があります。

- Cisco IPMA は Cisco IP SIP Phone をサポートしていません。
- 1 人のマネージャには最大 10 人のアシスタントを割り当てることができます。
- 1 人のアシスタントは最大 33 人のマネージャをサポートできます (各マネージャが IPMA 制御の回線を持っている場合)。
- Cisco IPMA は、Cisco CallManager クラスタごとに最大 1024 人のマネージャと 1024 人のアシスタントをサポートします。
- Cisco IPMA Assistant Console は、ハント グループ / キューをサポートしていません。
- Cisco IPMA Assistant Console は、レコードおよびモニタリングをサポートしていません。

- Cisco IPMA Assistant Console は、オンフック転送 (Transfer ソフトキーを押して受話器を置くことによって転送を完了するコール転送機能) をサポートしていません。
- Cisco IPMA Assistant Console は、ワンタッチ コール ピックアップ機能をサポートしていません。
- Cisco IP Phone モデル 7940 がサポートする回線ボタンまたは短縮ダイヤル ボタンは2つだけです。
- Microsoft Internet Explorer バージョン6 を実行する Windows XP コンピュータに Assistant Console アプリケーションをインストールするには、事前に Windows XP Service Pack 1 とともに Microsoft Java Virtual Machine (JVM) をインストールしておく必要があります。

Cisco IPMA のインストールと有効化

Cisco IPMA (サブレット) は、Cisco Tomcat がロードします。Cisco Tomcat は、Cisco CallManager のインストール時にインストールおよび起動されます。詳細については、P.2-3 の「Cisco IPMA サービス」を参照してください。

Cisco IPMA をシステムで利用できるようにするには、インストール後に管理者が3つの作業を実施します。

1. Tools メニューの下にある Cisco CallManager Serviceability Service Activation を使用して、Cisco IP Manager Assistant サービスを有効にします。詳細については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。
2. Cisco IP Manager Assistant サービス用の必要なサービス パラメータを設定します。P.2-21 の「Cisco IPMA のサービス パラメータの設定」を参照してください。
3. Serviceability Control Center Feature Service Web ページを使用して、Cisco IPMA サービスを停止し、もう一度起動します。P.2-23 の「Cisco IPMA サービスの開始」を参照してください。



(注)

Cisco IPMA 機能を英語以外の言語でマネージャまたはアシスタントの電話機とアシスタント コンソールに表示する必要がある場合は、Cisco IPMA を設定する前に、Locale Installer がインストールされていることを確認してください。Cisco IP Telephony Locale Installer のマニュアルを参照してください。

プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA の設定

Cisco IPMA を正しくインストールするには、設定チェックリストに示す手順を確認して、システムを実行し、ユーザとデバイスの設定要件を確認し、マネージャとアシスタントを設定します。



(注)

プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA は、共有回線サポートのある Cisco IPMA と同じ Cisco CallManager クラスタ内に共存します。共有回線サポートの設定については、P.3-11 の「共有回線サポートのある Cisco IPMA の設定」を参照してください。

次の項では、設定情報について説明します。

- プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA の設定チェックリスト (P.2-12)
- プロキシ回線サポートのあるシステムの設定 (P.2-15)
- Cisco IPMA のサービスパラメータの設定 (P.2-21)
- セキュリティに関する考慮事項 (P.2-23)
- Cisco IPMA サービスの開始 (P.2-23)
- Cisco IP Phone サービス設定 (P.2-23)
- マネージャおよびアシスタントの電話機の設定 (P.2-24)
- マネージャおよびアシスタントの設定 (P.2-27)

プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA の設定チェックリスト

表 2-1 に、Cisco CallManager の Cisco IP Manager Assistant 機能を設定する論理的な手順を示します。

始める前に

チェックリスト内の情報は、電話機とユーザがすでに設定され、デバイスがユーザに関連付けられていることを想定しています。『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの追加」、「エンドユーザとデバイスとの関連付け」、および「Cisco IP Phone の設定」を参照してください。

表 2-1 プロキシ回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant の設定チェックリスト

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 1 Cisco CallManager Serviceability の Service Activation を使用して、Cisco IP Manager Assistant サービスを有効にします。	Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド
ステップ 2 システム管理パラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 3つのパーティションを追加する。 2つのコーリング検索スペースを追加する。 IPMA 用の CTI ルートポイントを追加する。ルートポイントは、サーバあたり1つのみ追加できます。 IPMA サービスパラメータを設定する。  ヒント システム管理パラメータを自動設定するには、Cisco IPMA Configuration Wizardを使用します。詳細については、 P.2-15 の「Cisco IPMA Configuration Wizard」を参照してください。	コーリング検索スペースとパーティション (P.2-19) 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「パーティションの設定」 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「コーリング検索スペースの設定」 Cisco IPMA ルートポイント (P.2-20) 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「CTI ルートポイントの設定」 Cisco IPMA Configuration Wizard (P.2-15) Cisco IPMA のサービスパラメータの設定 (P.2-21) 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
ステップ 3 <ul style="list-style-type: none"> アプリケーションユーザの CAPF プロファイルを設定します (オプション)。 セキュリティ用の IPMA サービスパラメータを設定します (オプション)。 	Cisco IPMA のサービスパラメータの設定 (P.2-21) セキュリティに関する考慮事項 (P.2-23)
ステップ 4 Serviceability Control Center Feature Services を使用して、Cisco IPMA サービスを停止し、もう一度起動します。	Cisco IPMA サービスの開始 (P.2-23)
ステップ 5 電話機のパラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> IPMA サービスを Cisco IP Phone サービスとして追加する。 Cisco IP Phone を設定する。 	Cisco IP Phone サービス設定 (P.2-23) 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco IP Phone サービスの設定」 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話ボタンテンプレートの設定」
ステップ 6 マネージャとアシスタントの Cisco IP Phone パラメータを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> マネージャの電話機を設定する。 アシスタントの電話機を設定する。 	『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco IP Phone の設定」

■ プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA の設定

表 2-1 プロキシ回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant の設定チェックリスト (続き)

設定手順		関連手順と関連項目
ステップ 7	<p>マネージャの電話機について、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソフトキー テンプレートを割り当てる。 • プライマリ回線を追加する。 • プライマリ回線のボイスメール プロファイルを設定する。 • 着信インターコム回線を追加する。 • インターコム発信先の短縮ダイヤルを追加する。 • Cisco IP Phone Service および Cisco IPMA に登録する。 • ユーザ ロケールを設定する。 • 電話機をリセットする。 <p> ヒント マネージャの電話設定の一部を自動設定するには、Cisco IPMA Manager Configuration ウィンドウで自動設定チェックボックスを選択します。詳細については、P.2-24 の「マネージャの電話機」を参照してください。</p>	<p>マネージャおよびアシスタントの電話機の設定 (P.2-24)</p> <p>『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話機の検索」</p> <p>『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話機の削除」</p> <p>『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定の概要」</p> <p>『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「短縮ダイヤル ボタンの設定」</p> <p>Cisco IP Phone サービス設定 (P.2-23)</p> <p>『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco IP Phone サービスの設定」</p> <p>『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話機のリセット」</p>
ステップ 8	<p>アシスタントの電話機について、次の設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソフトキー テンプレートを割り当てる。 • シスコ製 14 ボタン拡張モジュール (7914) を追加する (オプション)。 • Standard IPMA Assistant 電話機ボタン テンプレートを割り当てる。 • プライマリ回線を追加する。 • 設定済みの各マネージャ用のプロキシ回線を追加する。マネージャのプライマリ回線のボイスメール プロファイルと同じボイスメール プロファイルを追加します。 • 着信インターコム回線を追加する。 • 設定済みの各マネージャの着信インターコム回線に対する短縮ダイヤルを追加する。 • ユーザ ロケールを設定する。 • 電話機をリセットする。 <p> ヒント アシスタントの電話機の一部を自動設定するには、Cisco IPMA Assistant Configuration ウィンドウで Automatic Configuration チェックボックスを選択します。詳細については、P.2-25 の「アシスタントの電話機」を参照してください。</p>	<p>マネージャおよびアシスタントの電話機の設定 (P.2-24)</p> <p>『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話機の検索」</p> <p>『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話機の削除」</p> <p>『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話番号の設定の概要」</p> <p>『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「短縮ダイヤル ボタンの設定」</p> <p>『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「電話機のリセット」</p>

表 2-1 プロキシ回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant の設定チェックリスト (続き)

設定手順	関連手順と関連項目
ステップ 9 Cisco IP Manager Assistant アプリケーションを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 新しいマネージャを作成する。 マネージャ用の回線を設定する。 マネージャにアシスタントを割り当てる。 アシスタント用の回線を設定する。 	プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て (P.2-28) マネージャの Cisco IPMA 情報の削除 (P.2-30) アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定 (P.2-31)
ステップ 10 アシスタント用のダイヤル規則を設定します。	ダイヤル規則の設定 (P.2-35)
ステップ 11 Assistant Console アプリケーションをインストールします。	Assistant Console アプリケーションのインストール (P.2-36)
ステップ 12 マネージャとアシスタントのコンソール アプリケーションを設定します。	Cisco IP Manager Assistant ユーザガイド

プロキシ回線サポートのあるシステムの設定

Cisco IPMA サービスは、プロキシ回線モードを使用しているマネージャ宛のコールを代行受信します。このため、パーティション、コーリング検索スペース、およびルートポイントを設定する必要があります。Cisco IPMA の設定については、P.2-12 の「プロキシ回線サポートのある Cisco IPMA の設定チェックリスト」を参照してください。

Cisco IPMA 用のデバイスとユーザを設定する前に、次の設定作業を実施する必要があります。

- コーリング検索スペースとパーティション (P.2-19)
- Cisco IPMA ルートポイント (P.2-20)

Cisco IPMA には、パーティション、コーリング検索スペース、ルートポイント、および IPMA Phone Service の管理者による設定作業を支援するために、1 回だけ使用できる設定ウィザードが用意されています。また、Cisco IPMA Configuration Wizard は、IPMA Device Configuration Defaults セクションで Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータを作成します。Cisco IPMA Configuration Wizard の詳細については、P.2-15 の「Cisco IPMA Configuration Wizard」を参照してください。



(注)

ここでは、IPMA の設定に関する特定の情報について説明します。コーリング検索スペース、パーティション、および CTI ルートポイントの設定については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

Cisco IPMA Configuration Wizard

Cisco IPMA Configuration Wizard を使用すると、IPMA を少ない時間で誤りなく設定できます。管理者がこの設定ウィザードを正しく実行して完了すると、パーティション、コーリング検索スペース、およびルートポイントが自動的に作成されます。また、IPMA マネージャ電話機用、IPMA アシスタント電話機用、およびその他すべてのユーザ電話機用の BAT テンプレートも作成されます。管理者は、この BAT テンプレートを使用して、マネージャ、アシスタント、およびその他すべてのユーザを設定します。詳細については、『Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザガイド』を参照してください。



(注) Cisco IPMA Configuration Wizard は Service Parameters Configuration ウィンドウの IPMA Device Configuration Defaults セクションで Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータのみを作成します。残りのサービス パラメータは手動で入力する必要があります。サービス パラメータの詳細については、P.2-21 の「Cisco IPMA のサービス パラメータの設定」を参照してください。

Cisco IPMA Configuration Wizard では、設定パラメータごとにウィンドウが表示されます。これらのウィンドウには、情報があらかじめ設定されています。設定情報（パーティション名など）に他の値を使用する場合は、事前設定済みの情報を適切な情報に変更できます。

Cisco IPMA Configuration Wizard を使用して Cisco IPMA のシステム パラメータを設定するには、次の手順に従います。

始める前に

設定ウィザードは、Bulk Administration Tool (BAT) と同じサーバ (Cisco CallManager サーバ) から実行する必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager Administration ウィンドウで、**Application > Cisco IPMA Configuration Wizard** の順に選択します。

Cisco IPMA Configuration Wizard Overview ウィンドウが表示され、設定ウィザードでのプロセスに関する説明が表示されます。



(注) Cisco CallManager クラスタの設定で Cisco IPMA Configuration Wizard を使用できるのは、1 回だけです。ウィザード機能によって、設定ウィザードが実行された回数 (0 または 1) が確認されます。設定ウィザードが 1 回実行されていた場合は、要約ウィンドウが自動的に表示されます。この要約ウィンドウには、前回実行された設定ウィザードの詳細およびステータスが表示されます。設定作業が 1 回も実行されていない場合は、設定プロセスが続行されます。

ステップ 2 IPMA ウィザードのプロセスを開始するには、**Next** ボタンをクリックします。

Partition for Managers ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 Partition name フィールドに名前を入力し、説明を入力します。または、デフォルトのパーティション名と説明を使用します。

ステップ 4 **Next** ボタンをクリックします。

Partition for IPMA ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 Partition name フィールドに名前を入力し、説明を入力します。または、デフォルトのパーティション名と説明を使用します。

ステップ 6 **Next** ボタンをクリックします。

Partition for All Users ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 Partition name フィールドに名前を入力し、説明を入力します。または、デフォルトのパーティション名と説明を使用します。

ステップ 8 **Next** ボタンをクリックします。

Manager Calling Search Space ウィンドウが表示されます。

ステップ 9 Calling search space name フィールドに名前を入力し、説明を入力します。または、デフォルトのコーリングサーチスペース名と説明を使用します。

Route Partitions for this Calling Search Space の下の Available Partitions ボックスと Selected Partitions ボックスに、Partitions for the Manager Calling Search Space が自動的に一覧表示されます。表示されるデフォルト値が不適切な場合、管理者は適切なパーティションを Available Partitions ボックスから選択できます。パーティションを2つのボックス間で移動するには、上矢印と下矢印を使用します。

ステップ 10 **Next** ボタンをクリックします。

IPMA Calling Search Space ウィンドウが表示されます。

ステップ 11 Calling search space name フィールドに名前を入力し、説明を入力します。または、デフォルトのコーリングサーチスペース名と説明を使用します。

Additional Route Partitions for This Calling Search Space の下の Available Partitions ボックスと Selected Partitions ボックスに、Partitions for the IPMA Calling Search Space が自動的に表示されます。表示されるデフォルト値が不適切な場合、管理者は適切なパーティションを Available Partitions ボックスから選択できます。パーティションを2つのボックス間で移動するには、上矢印と下矢印を使用します。

ステップ 12 **Next** ボタンをクリックします。

システムで設定されている既存のコーリングサーチスペースがある場合は、Existing Calling Search Spaces ウィンドウが表示されます。それ以外の場合、Existing Calling Search Spaces ウィンドウは表示されません（ステップ 13 へ進んでください）。

Cisco IPMA では、既存のコーリングサーチスペースに対して、Generated_IPMA と Generated_IPMA_Everyone というプレフィックスを持つパーティションを追加する必要があります。これらのパーティションは、Calling Search Spaces Configured with IPMA Partitions の下の Available Partitions ボックスと Selected Partitions ボックスに自動的に表示されます。パーティションを2つのボックス間で移動するには、上矢印と下矢印を使用します。



(注) ステップ 5 とステップ 7 で管理者がパーティション名を変更した場合は、既存のコーリングサーチスペースに追加されるプレフィックスも変更されます。

ステップ 13 **Next** ボタンをクリックします。

IPMA CTI Route Point ウィンドウが表示されます。

ステップ 14 CTI route point name フィールドに名前を入力します。または、デフォルトの CTI ルート ポイント名を使用します。

ステップ 15 ドロップダウン選択リスト ボックスから、適切なデバイス プールを選択します。

ステップ 16 ルート ポイントの電話番号を入力するか、またはデフォルトのルート ポイントの電話番号を使用します。

ステップ 17 **Next** ボタンをクリックします。

IPMA Phone Service ウィンドウが表示されます。

ステップ 18 IPMA Phone Service 名を入力します。または、デフォルトの IPMA Phone Service 名を使用します。

ステップ 19 ドロップダウン選択リスト ボックスから、プライマリ IPMA サーバを選択します。または、Enter Server Name/IP Address フィールドにサーバ名または IP アドレスを入力します。

ステップ 20 **Next** ボタンをクリックします。

Cisco IPMA Configuration Wizard Confirmation ウィンドウが表示されます。このページには、管理者が設定ウィザードで選択した情報がすべて表示されます。この情報が誤っている場合、管理者は設定プロセスをキャンセルすることも、前の設定ウィンドウに戻ることもできます。

ステップ 21 設定プロセスを実行するには、**Finish** ボタンをクリックします。設定プロセスをキャンセルするには、**Cancel** ボタンをクリックします。

設定プロセスが正常に完了すると、最終的なステータスを示すウィンドウが表示されます。ウィンドウにはウィザードの各設定の成功または失敗が表示されます。

設定ウィザードで発生したすべてのエラーは、トレース ファイル (/var/log/active/tomcat/logs/ccmadmin/log4j/ccmadmin*.log) に送られます。

このファイルには、次の CLI コマンドを使用してアクセスできます。

```
file get activelog tomcat/logs/ccmadmin/log4j
```

設定ウィザードは、設定ウィンドウで収集したデータを使用して、パーティション、コーリングサーチ スペース、ルート ポイント、および Cisco IPMA Phone サービスを自動的に作成します。設定ウィザードは Service Parameters Configuration ウィンドウの IPMA Device Configuration Defaults セクションで Cisco IP Manager Assistant サービス パラメータを読み込みます。さらに、IPMA マネージャ電話機用テンプレート、IPMA アシスタント電話機用テンプレート、および BAT で使用される Everyone 電話機用のテンプレートも作成して、Cisco IPMA で使用する電話機を設定します。マネージャおよびアシスタントのデバイスの設定については、『Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザガイド』を参照してください。

コーリング サーチ スペースとパーティション

Cisco IPMA ルート ポイントは、マネージャ宛のコールを代行受信し、ルーティング先を決定します。このため、マネージャ宛のコールは、すべて最初にルート ポイントを通過します。

このコール フローを達成するために、Cisco IPMA ではコーリング サーチ スペースを使用します。Cisco IPMA サービスでルーティングまたは対応する必要がある回線からのコールには、ルート ポイントパーティション（このパーティションは IPMA パーティションと呼ばれます）がプライマリパーティションとして設定されたコーリング サーチ スペースが必要です。セカンダリのパーティションは、Everyone パーティションと呼ばれます。次の例を参照してください。



(注)

複数の回線を持ちプロキシ回線サポートを使用するマネージャの場合、それらの回線はルート ポイントの範囲内に入っている必要があります（たとえば、ルート ポイントが 1xxx であれば、マネージャの回線は 1000 ~ 1999 の範囲内に入っている必要があります）。

例

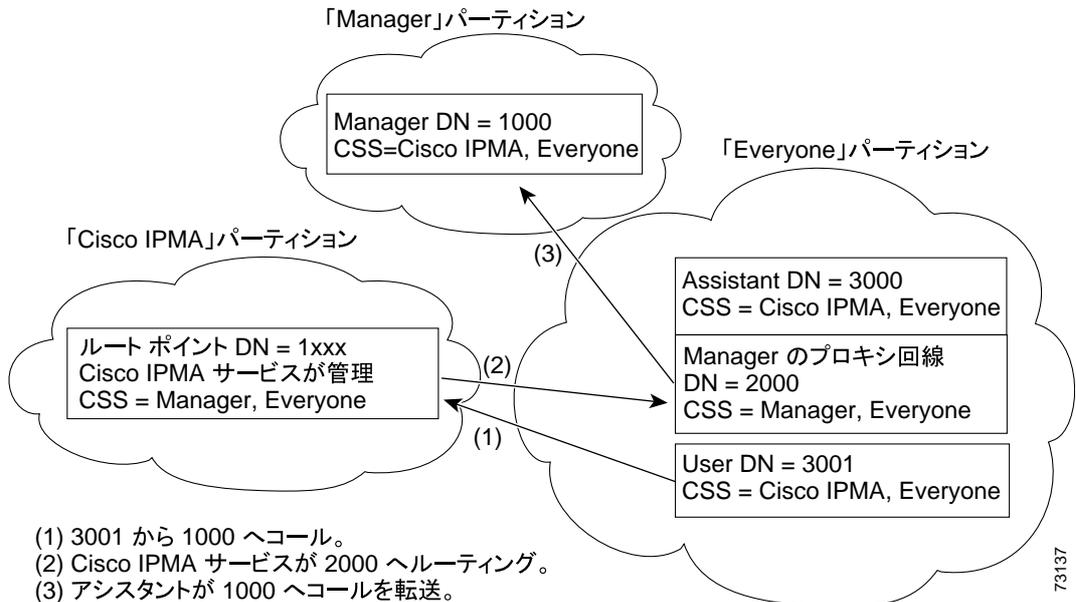
Everyone パーティション内のユーザが、Manager パーティション内のマネージャのプライマリ回線に発信します。この発信コールのパーティションには、マネージャのプライマリ回線が含まれていません。このため、マネージャの回線番号がコーリング サーチ スペースから検索されます。検索の順序は、コーリング サーチ スペース内にあるパーティションの優先順位によって決まります。ユーザの回線のコーリング サーチ スペースは、IPMA パーティションと Everyone パーティションで構成されています。このため、マネージャのプライマリ回線の検索は、IPMA パーティションから開始されます。Cisco IPMA ルート ポイントとマネージャのプライマリ回線番号が一致したため、コールがルート ポイントに送信されます。ルート ポイントを監視している Cisco IPMA サービスがコールを取得し、マネージャの設定を使用してコールをルーティングします。

ルート ポイントを経由する必要があるコールが発生するすべての回線には、IPMA および Everyone と呼ばれるコーリング サーチ スペースが必要です。このコーリング サーチ スペース設定を必要とする回線の例としては、マネージャのプライマリ回線とプライベート回線、アシスタントのプライマリ回線、およびその他すべてのユーザの回線があります。

ルーティング ロジックが適用されず、マネージャに直接送信されるコールが発生するすべての回線には、Manager および Everyone と呼ばれるコーリング サーチ スペースが必要です。このコーリング サーチ スペース設定を必要とする回線の例としては、Cisco IPMA ルート ポイント、およびアシスタントのプロキシ回線があります。

コーリング サーチ スペースおよびパーティションの設定例については、[図 2-4](#) を参照してください。

図 2-4 プロキシ回線サポート用の Cisco IPMA のコーリング サーチ スペースおよびパーティションの設定例



設定のヒント

- Cisco IPMA、Manager、および Everyone と呼ばれる 3 つのパーティションを作成する。
- CSS-M-E と呼ばれるコーリング サーチ スペースを作成する。このコーリング サーチ スペースには、Manager パーティションと Everyone パーティションを含めます。
- CSS-I-E と呼ばれるコーリング サーチ スペースを作成する。このコーリング サーチ スペースには、Cisco IPMA パーティションと Everyone パーティションを含めます。
- Manager と呼ばれるパーティション内に、マネージャのプライマリおよびプライベートの電話番号 (DN) を設定する。
- Everyone と呼ばれるパーティション内に、すべてのアシスタントの回線とその他のユーザの回線を設定する。
- Cisco IPMA と呼ばれるパーティション内に、Cisco IPMA ルート ポイントを設定する。

Cisco IPMA ルート ポイント

Cisco IPMA ルート ポイントは、サーバあたり 1 つだけです。Cisco IPMA ルート ポイントの電話番号は、マネージャのプライマリおよびプライベートの電話番号と一致する必要があります。一致していない場合は、Cisco IPMA サービスがコールを正しくルーティングしません。この条件を満たすには、ワイルドカードの使用をお勧めします。

設定のヒント

- IPMA_RP と呼ばれるルート ポイントを作成する。
- マネージャのプライマリおよびプライベートの電話番号と一致するようにルート ポイントの電話番号を設定する。たとえば、プライマリ電話番号が 1000-1999 であるマネージャには、ルート ポイント電話番号を回線 1 に 1xxx として作成し、プライマリ電話番号が 2000-2999 であるマネージャ用には、ルート ポイント電話番号を回線 2 に 2xxx として作成します。コーリング サーチ スペース CSS-M-E を持つ Cisco IPMA パーティション内に、この電話番号を設定します。
- 宛先が内部/外部の Call Forward No Answer をルート ポイントの電話番号として設定し (たとえば、ルート ポイント電話番号 1xxx に CFNA を 1xxx として)、コーリング サーチ スペースには CSS-M-E を設定する。IPMA サービスが利用できない場合、Call Forward No Answer はコールをマネージャに転送します。

Cisco IPMA のサービス パラメータの設定

Cisco IPMA サービスのサービス パラメータには、汎用と汎クラスタの2つのカテゴリがあります。汎クラスタ パラメータは、すべての Cisco IPMA サービス用に1回指定します。汎用パラメータは、インストールされている各 Cisco IPMA サービスに対して指定します。

Cisco IPMA サービス パラメータを設定するには、Cisco CallManager Administration を使用してサービス パラメータにアクセスします。**System > Service Parameters** を選択します。Cisco IPMA アプリケーションが配置されているサーバを選択し、Cisco IP Manager Assistant サービスを選択します。

Cisco IPMA には、次に示す設定必須のサービス パラメータがあります。

- 汎クラスタ
 - Cisco IPMA Server (Primary) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。
 - Cisco IPMA Server (Backup) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。
 - Cisco IPMA Server Port : デフォルト値はポート 2912。
 - Cisco IPMA Assistant Console Heartbeat Interval : デフォルト値は 30 秒。この間隔タイマーは、アシスタント コンソールでフェールオーバーが発生するまでの時間を指定します。
 - Cisco IPMA Assistant Console Request Timeout : デフォルト値は 30 秒。
 - Cisco IPMA RNA Forward Calls : デフォルト値は False。パラメータを True に設定した場合は、アシスタント電話機が応答しないときに、コールが他のアシスタント電話機に転送されます。
 - Cisco IPMA RNA Timeout : デフォルト値は 10 秒。RNA タイムアウトは、コールを他のアシスタント電話機に転送するまでに、アシスタント電話機が無応答でいる時間を指定します。Call Forward No Answer (CFNA) と RNA タイムアウトを両方とも設定する場合は、最初にタイムアウトする値が優先されます。
 - CTIManager Connection Security Flag : Cisco IPMA サービスの CTIManager 接続のセキュリティが有効か無効かを示します。有効にすると、Cisco IPMA が、CAPF Profile Instance Id for Secure Connection to CTIManager サービス パラメータで設定された Application CAPF プロファイルを使用して、CTIManager へのセキュアな接続を確立します。
- 各サーバの Cisco IPMA サービス パラメータ
 - CTIManager (Primary) IP Address : デフォルト値なし。コール制御に使用するプライマリ CTIManager の IP アドレスを入力します。
 - CTIManager (Backup) IP Address : デフォルト値なし。この IP アドレスは、管理者が手動で入力する必要があります。
 - Route Point Device Name for Proxy Mode : デフォルト値なし。Cisco IPMA ルート ポイント デバイス名を選択します。このデバイス名は、**Device > CTI Route Point** を使用して設定します。
 - CAPF Profile Instance Id for Secure Connection to CTIManager : この Cisco IPMA サーバが CTIManager へのセキュアな接続を開くために使用する Application User IPMASecureSysUser の Application CAPF Profile の Instance ID を指定します。CTIManager Connection Security Flag が有効な場合は、このパラメータを設定する必要があります。

マネージャおよびアシスタントの IPMA 自動設定を使用する場合、Cisco IPMA には、次に示す設定必須の汎クラスタ パラメータが含まれます。

- ソフトキー テンプレート
 - Assistant Softkey Template : デフォルトでは、Standard IPMA Assistant ソフトキー テンプレートが指定されています。このパラメータは IPMA アシスタントの自動設定の間、アシスタントのデバイスに割り当てられたソフトキー テンプレートを指定します。

- Prefix for Manager DN : デフォルト値なし。このパラメータには、プロキシの電話番号を生成するプロセスで、Cisco CallManager がマネージャの電話番号に追加するプレフィックスを指定します。たとえば、マネージャの電話番号が 1001、削除される文字数が 0、プレフィックスが * の場合、Cisco CallManager は *1001 のプロキシの電話番号を生成します。最大プレフィックス長は 24 です。

セキュリティに関する考慮事項

Cisco IPMA は、CTI へのセキュアな接続（トランスポート層セキュリティ接続）をサポートしています。

管理者は、**User Management > Application User CAPF Profile** を選択して CAPF プロファイルを（各 IPMA ノードに 1 つずつ）設定する必要があります。Application User CAPF Profile Configuration ウィンドウで、Application User ドロップダウンリスト ボックスから IPMASecureSysUser を選択します。

IPMA のセキュリティの設定については、P.2-21 の「Cisco IPMA のサービス パラメータの設定」の CTIManager Connection Security Flag および CAPF Profile Instance Id for Secure Connection to CTIManager サービス パラメータの説明を参照してください。

『Cisco CallManager セキュリティ ガイド』には、CTI アプリケーション用のセキュリティ設定に関する詳細な手順の説明があります。

Cisco IPMA サービスの開始

Cisco IPMA サービスは、Cisco Tomcat 上でアプリケーションとして動作します。Cisco IPMA サービスを開始または停止するには、Serviceability Control Center Feature Services ウィンドウを使用します。

Cisco IP Phone サービス設定

Cisco IPMA サービスを新しい Cisco IP Phone サービスとして追加します。Cisco IPMA サービスの名前、説明、および URL を設定します。名前と説明はマネージャの Cisco IP Phone に表示されるので、そこで使用する言語と同じ言語を使用する必要があります。詳細については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco IP Phone サービスの設定」を参照してください。

次の形式で URL を指定します。

http://<サーバの IP アドレス

>:8080/ma/servlet/MAService?cmd=doPhoneService&Name=#DEVICENAME#

例を示します。

http://123.45.67.89:8080/ma/servlet/MAService?cmd=doPhoneService&Name=#DEVICENAME#

設定のヒント

Cisco IP Phone サービスに冗長性を持たせるには、IP アドレスではなくホスト名を使用する Cisco IP Phone サービスを作成します。DNS のホスト名は、IPMA プライマリおよびバックアップの IP アドレスに解決する必要があります。電話機のソフトキー機能とフィルタリング機能は、電話機サービスと同様に、必要に応じて自動的にフェールオーバーします。

マネージャおよびアシスタントの電話機の設定

各 IPMA マネージャおよびアシスタントにデバイスを設定する必要があります。開始する前に、電話機のタイプに応じて次のタスクを実行します。

Cisco IP Phone モデル 7940/41、7960/61、および 7970/71S

- Cisco IPMA を使用するマネージャ用およびアシスタント用の Cisco IP Phone モデル 7940/41、7960/61、または 7970/71 を追加する。電話機を追加するには、次のいずれかの方法を実行します。
 - 手動 (**Device > Phone** を選択)。
 - 自動登録
 - BAT
- 各アシスタントに Standard IPMA Assistant 電話機ボタンテンプレートを割り当てる。

Cisco IP Phone モデル 7940/41

IPMA に Cisco IP Phone モデル 7940/41 を使用する際には、次の制限事項が適用されます。

- 次の項目を設定して、マネージャごとに Cisco IP Phone モデル 7940/41 を追加する。
 - プライマリ回線用とインターコム用の 2 つの回線
 - 共有回線サポートを持つマネージャ用のソフトキー テンプレート
- 次の項目を設定して、アシスタントごとに Cisco IP Phone モデル 7940/41 を追加する。
 - プライマリ回線用とインターコム用の 2 つの回線
 - アシスタント用のソフトキー テンプレート



(注) シスコは、IPMA への Cisco IP Phone モデル 7940/41 の使用をサポートしていますが、Cisco IP Phone モデル 7960/61 または Cisco IP Phone モデル 7970/71 の方がより多くの機能を備えているので、こちらの使用をお勧めします。

タスクの実行後、次の項で説明されている手順に従って電話機を設定します。

- [マネージャの電話機 \(P.2-24\)](#)
- [アシスタントの電話機 \(P.2-25\)](#)
- [マネージャおよびアシスタント以外の電話機 \(P.2-27\)](#)

マネージャの電話機

この項では、マネージャの電話機を設定するための IPMA の要件およびヒントについて説明します。

マネージャの電話機の設定

次の設定値で、マネージャの Cisco IP Phone を設定します。

- Standard IPMA Manager ソフトキー テンプレート (iDivert ソフトキーと TrnsfVM ソフトキーが含まれている必要があります)
- プライマリ回線
- 必要な場合は追加の回線
- プライマリ回線のボイスメール プロファイル
- スピーカフォン オプションまたはヘッドセット オプションを使用した自動応答をサポートするための、着信インターコム回線

- インターコム発信先の短縮ダイヤル
- Cisco IP Phone Service および Cisco IPMA への登録
- ユーザ ロケールの設定

マネージャを設定するとき Cisco IPMA Manager Configuration ウィンドウの Automatic Configuration チェックボックスを選択しておくこと、設定の一部を自動化できます。Automatic Configuration は、マネージャ デバイスまたはデバイス プロファイルの次の項目を設定します。

- ソフトキー テンプレート
- IPMA phone サービスへの登録
- IPMA が制御する選択された回線およびインターコム回線用のコーリング サーチ スペースおよびパーティション
- インターコム回線用のスピーカフォンを使用した自動応答

マネージャの電話機を自動設定する前に、IPMA Device Configuration Defaults セクションで Cisco IPMA サービス パラメータを設定する必要があります。このパラメータには、マネージャ回線で使用するパーティションおよびコーリング サーチ スペースとして情報を指定します。パラメータを手動で入力、または Cisco IPMA Configuration Wizard を使用してパラメータを読み込むこともできます。パラメータの詳細については、P.2-21 の「Cisco IPMA のサービス パラメータの設定」を参照してください。Cisco IPMA Configuration Wizard の詳細については、P.2-15 の「Cisco IPMA Configuration Wizard」を参照してください。

適切なサービス パラメータを入力後、Cisco IPMA Manager Configuration ウィンドウの **Automatic Configuration** チェックボックスを選択し、**Save** をクリックすると、マネージャの電話機を自動設定できます。手順については、P.2-28 の「プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て」を参照してください。

マネージャの設定のヒント

- マネージャのプライマリ電話番号には Call Forward All Calls を設定しない。Call Forward All Calls が設定されている場合、マネージャは、アシスタントのプロキシ電話番号にルーティングされるコールを代行受信できないためです。
- プライマリ回線 (IPMA が制御する回線) を設定して、電話番号を割り当てる。自動設定を使用していない場合、これらの回線には、Manager パーティションと CSS-I-E コーリング サーチ スペースを使用します。
- 着信インターコム回線を設定して、電話番号を割り当てる。自動設定を使用していない場合は、Everyone パーティションと CSS-M-E コーリング サーチ スペースを使用します。

IPMA は、Cisco IP Phone モデル 7940 をサポートしています。詳細については、P.2-24 の「Cisco IP Phone モデル 7940/41」を参照してください。

アシスタントの電話機

この項では、アシスタントの電話機を設定するための IPMA の要件およびヒントについて説明します。

アシスタントの電話機の設定

次の設定値で、アシスタントの Cisco IP Phone を設定します。

- Standard IPMA Assistant ソフトキー テンプレート (iDivert ソフトキーと TrnsfVM ソフトキーが含まれている必要があります)
- デフォルト 14 ボタン拡張モジュール (モデル 7960 だけのオプション)
- Standard IPMA Assistant 電話機ボタン テンプレート (14 ボタン拡張モジュールを使用している場合)

- プライマリ回線
- マネージャのボイスメール プロファイルと同じボイスメール プロファイルを持つ、設定済みの各マネージャのプロキシ回線
- スピーカフォン オプションまたはヘッドセット オプションを使用した自動応答をサポートするための、着信インターコム回線
- 設定済み各マネージャの着信インターコム回線に対する短縮ダイヤル
- ユーザ ロケールの設定

アシスタントを設定するとき Cisco IPMA Assistant Configuration ウィンドウの **Automatic Configuration** チェックボックスを選択しておくこと、設定の一部を自動化できます。**Automatic Configuration** は、アシスタント デバイスまたはデバイス プロファイルの次の項目を設定します。

- ソフトキー テンプレート
- 電話機ボタン テンプレート
- 既存のプロキシ回線およびインターコム回線用のコーリング サーチ スペースおよびパーティション
- インターコム回線用のスピーカフォンを使用した自動応答
- プロキシ回線の自動生成 (選択されている場合)

アシスタントの電話機を自動設定する前に、**IPMA Device Configuration Defaults** セクションで Cisco IPMA サービス パラメータを設定する必要があります。これらのパラメータには、アシスタントのプロキシ回線およびインターコム回線で使用するパーティションおよびコーリング サーチ スペースとして情報を指定します。パラメータを手動で入力、または **Cisco IPMA Configuration Wizard** を使用してパラメータを読み込むこともできます。パラメータの詳細については、[P.2-21](#) の「**Cisco IPMA のサービス パラメータの設定**」を参照してください。Cisco IPMA Configuration Wizard の詳細については、[P.2-15](#) の「**Cisco IPMA Configuration Wizard**」を参照してください。

適切なサービス パラメータを入力後、Cisco IPMA Assistant Configuration ウィンドウの **Automatic Configuration** チェックボックスを選択すると、アシスタントの電話機を自動設定できます。手順については、[P.2-31](#) の「**アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定**」を参照してください。

自動設定を使用すると、アシスタントの電話機で自動的にプロキシ回線を作成できます (コーリング サーチ スペースの情報とパーティション情報が必要です)。自動生成されたプロキシの番号は Proxy Directory Number Range サービス パラメータおよび Proxy Directory Number Prefix サービス パラメータに入力した値から生成されます。詳細については、[P.2-21](#) の「**Cisco IPMA のサービス パラメータの設定**」を参照してください。

アシスタントを設定するときに、Cisco IPMA Assistant Configuration ウィンドウの Proxy Line ドロップダウンリストに、自動生成された番号がアシスタント デバイスの回線とともに表示されます。アシスタントの電話機の既存の回線の前に「Line」と表示されます。システムがアシスタントの電話機にプロキシ回線を追加するまで、自動生成された各番号の前に「Auto」と表示されます。システムは Cisco IPMA サービス パラメータの設定に基づいて、プロキシ回線およびインターコム回線のコーリング サーチ スペースおよびパーティションを設定します。手順については、[P.2-31](#) の「**アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定**」を参照してください。

アシスタントの設定のヒント

- 着信インターコム回線を設定して、電話番号を割り当てる。自動設定を使用していない場合は、Everyone パーティションと CSS-M-E コーリング サーチ スペースを使用します。
- プロキシ回線を設定して、アシスタントが担当するマネージャごとに電話番号を割り当てる。自動設定を使用していない場合は、Everyone パーティションと CSS-M-E コーリング サーチ スペースを使用します。

IPMA は、Cisco IP Phone モデル 7940 をサポートしています。詳細については、[P.2-24](#) の「Cisco IP Phone モデル 7940/41」を参照してください。

マネージャおよびアシスタント以外の電話機

マネージャおよびアシスタントのデバイスの設定に加えて、Cisco CallManager クラスタ内のその他すべてのユーザも設定します。適切に設定することで、マネージャおよびアシスタントが、クラスタ内のその他すべてのユーザとの間でコールを発着信できるようになります。

マネージャおよびアシスタント以外のユーザの設定のヒント

- マネージャおよびアシスタント以外のユーザ全員に対して、Everyone パーティションを使用する。
- マネージャおよびアシスタント以外のユーザ全員に対して、CSS-I-E コーリング サーチ スペースを使用する。
- 自動登録を使用する場合、次のタスクを実行します。
 - Device Pool Configuration ウィンドウ (**System > Device Pool**) の Calling Search Space for Auto-registration フィールドで、CSS-I-E を選択します。
 - Cisco CallManager Configuration ウィンドウ (**System > Cisco CallManager**) の Partition フィールドで、Everyone を選択します。
- BAT を使用する場合、Cisco IPMA Configuration Wizard が作成した Everyone テンプレートを使用して、Everyone パーティションおよび CSS-I-E コーリング サーチ スペースで電話機を追加できます。

マネージャおよびアシスタントの設定

Cisco CallManager の End User Configuration ウィンドウで、Cisco IPMA 機能を使用するマネージャおよびアシスタントの設定値を設定します。IPMA はプロキシ回線モードまたは共有回線モードで設定できます。プロキシ回線モード用にマネージャおよびアシスタントを設定する方法は、[P.2-28](#) の「プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て」を参照してください。共有回線モード用にマネージャおよびアシスタントを設定する方法は、[P.3-18](#) の「共有回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て」を参照してください。

End User Configuration ウィンドウで、次の操作を実行します。

- マネージャおよびアシスタントのデバイスを選択する。
- 必要に応じて、マネージャまたはアシスタントのデバイスを自動設定する。
- User Configuration ウィンドウの表示で使用する言語を選択する。
- Cisco IPMA Manager または Cisco IPMA Assistant の設定ウィンドウを選択し、次の IPMA 設定を行います。
 - プライマリ回線、およびインターコム機能用の着信インターコム回線を設定する。たとえば、マネージャのインターコム回線として内線 3102 を設定します。この回線は、アシスタントからのインターコム コールを受信します。たとえば、Assistant Console には、アシスタント回線 1 (1102) と回線 2 (1103) が表示されています。アシスタントは、これらの回線に応答します。
 - マネージャのアシスタントを設定する。
 - アシスタントの電話機に、マネージャごとにプロキシ回線を設定する。たとえば、アシスタントの回線 4 と回線 5 は、マネージャの回線 1102 と回線 1103 からのコールを受信します。

次の項では、マネージャとアシスタントの設定について詳しく説明します。

- プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て (P.2-28)
- マネージャの Cisco IPMA 情報の削除 (P.2-30)
- アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定 (P.2-31)
- アシスタントの Cisco IPMA 情報の削除 (P.2-33)

プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て

Cisco IPMA マネージャを設定し、マネージャにアシスタントを割り当てるには、次の手順に従います。新しいユーザの設定については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの追加」を参照してください。



ヒント

アシスタントの Cisco IPMA 情報を設定する前に、Cisco IPMA マネージャの情報を設定してください。

手順

- ステップ 1** IPMA マネージャを設定し、既存のユーザにアシスタントを割り当てるには、**User Management > End User** を選択します。
- ステップ 2** IPMA マネージャにするユーザを検索するには、**Find** ボタンをクリックするか、**Search Options** フィールドにユーザ名を入力して **Find** ボタンをクリックします。
- ステップ 3** 選択されたマネージャのユーザ情報を表示するには、ユーザ名をクリックします。
End User Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** マネージャの IPMA 情報を設定するには、**Related Links** ドロップダウン リスト ボックスから **Cisco IPMA Manager** を選択し、**Go** をクリックします。
- ステップ 5** Cisco IPMA Manager Configuration ウィンドウが開き、マネージャ情報、アシスタント情報、および選択したユーザの IPMA 制御回線が表示されます。



ヒント

既存のアシスタント設定情報を表示するには、**Associated Assistants** リストにあるアシスタント名をクリックし、**Edit Assistant** リンクをクリックします。Cisco IPMA Assistant IPMA Configuration 情報が表示されます。マネージャ設定情報に戻るには、Cisco IPMA Assistant Configuration ウィンドウの **Associated Managers** リストにあるマネージャ名をクリックします。

- ステップ 6** Device Name/Profile 選択ボックスで、マネージャに関連付けるデバイス名またはデバイス プロファイルを選択します。エクステンション モビリティでは、オプションでデバイス プロファイルを使用できます。Cisco IPMA とともに Cisco CallManager エクステンション モビリティを使用する方法については、P.2-8 の「エクステンション モビリティ」を参照してください。



(注) マネージャが在宅勤務をする場合は、**Mobile Manager** チェックボックスをクリックし、デバイス プロファイルを選択します。デバイス プロファイルを選択した場合、マネージャは IPMA にアクセスする前に、**エクステンション モビリティ**を使用して電話機にログオンする必要があります。

- ステップ 7** 必要に応じて、**Intercom Line** 選択ボックスで、マネージャのインターコム回線表示を選択します。
- ステップ 8** アシスタントをマネージャに割り当てるには、**Available Assistants** リストからアシスタントを選択し、下矢印をクリックして、選択したアシスタントを **Associated Assistants** リストに移動します。
- ステップ 9** **Available Lines** 選択ボックスで、**Cisco IPMA** により制御しようとする回線を選択し、下矢印をクリックして、選択した回線を **Selected Lines** 選択ボックスに表示します。IPMA が制御する回線を 5 回線まで設定します。
- Selected Lines** 選択ボックスと **Cisco IPMA** コントロールから回線を削除する場合は、上矢印をクリックします。
- ステップ 10** ソフトキー テンプレートを自動的に設定するには、IPMA が制御する選択された回線およびインターコム回線用の **IPMA phone** サービス、**コーリング** サービスおよびパーティション、および **IPMA** サービス パラメータに基づいたマネージャの電話機用のインターコム回線用スピーカフォンを使用した自動応答を登録して、**Automatic Configuration** チェックボックスをオンにします。
- ステップ 11** **Save** ボタンをクリックします。

更新した内容は、すぐに適用されます。

Automatic Configuration チェックボックスをオンにして、サービス パラメータが無効な場合、メッセージが表示されます。

自動設定に成功すると、マネージャ デバイスがリセットされます。デバイス プロファイルを設定した場合、マネージャはログアウトしてからデバイスにログインして、設定を適用する必要があります。



(注) 名前、ユーザ ロケール、PIN など、IPMA 以外のユーザ設定が変更された場合、その変更は、ユーザ (マネージャまたはアシスタント) が **Cisco IPMA** からログアウトし、もう一度ログインするまで実施されません。

追加情報

P.2-38 の「[関連項目](#)」を参照してください。

マネージャの Cisco IPMA 情報の削除

マネージャの Cisco IPMA 情報を削除するには、次の手順に従います。マネージャの IPMA 以外の情報の削除については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの追加」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** IPMA 情報を削除するマネージャを検索するには、Cisco CallManager Administration で、**User Management > End User** を選択します。
- ステップ 2** Find and List Users ウィンドウで **Find** ボタンをクリックするか、Search Options フィールドにユーザ名を入力して **Find** ボタンをクリックします。
- 設定されているユーザのリストが表示されます。
- ステップ 3** Cisco IPMA 情報を削除するマネージャを選択します。
- ステップ 4** Related Links ドロップダウンリスト ボックスで **Cisco IPMA Manager** をクリックします。
- Cisco IPMA Manager Configuration ウィンドウが表示され、IPMA マネージャの設定情報が表示されます。
- ステップ 5** **Delete** ボタンをクリックします。
- 更新した内容は、すぐに適用されます。
-

追加情報

[P.2-38 の「関連項目」](#) を参照してください。

マネージャの Cisco IPMA 設定の更新

マネージャの Cisco IPMA 情報を更新するには、次の手順に従います。マネージャの IPMA 以外の情報の更新については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの追加」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** IPMA 情報を更新するマネージャを検索するには、Cisco CallManager Administration で、**User Management > End User** を選択します。
- ステップ 2** Find and List Users ウィンドウで **Find** ボタンをクリックするか、Search Options フィールドにユーザ名を入力して **Find** ボタンをクリックします。
- 設定されているユーザのリストが表示されます。
- ステップ 3** Cisco IPMA 情報を更新するマネージャを選択します。

ステップ 4 Related Links ドロップダウンリスト ボックスで **Cisco IPMA Manager** をクリックします。

Cisco IPMA Manager Configuration ウィンドウが表示され、IPMA マネージャの設定情報が表示されます。

ステップ 5 デバイス名、IPMA が制御する回線、インターコム回線表示など、変更する情報を更新します。



(注) **Automatic Configuration** チェックボックスがオンの場合、システムがソフトキー テンプレート自動的に設定して、IPMA が制御する選択された回線およびインターコム回線用の IPMA phone サービス、コーリング サーチャ スペースおよびパーティション、および IPMA サービス パラメータに基づいたマネージャの電話機用のインターコム回線用スピーカフォンを使用した自動応答を登録します。

ステップ 6 Save ボタンをクリックします。

更新した内容は、すぐに適用されます。



(注) 名前、ユーザ ロケール、PIN など、IPMA 以外のユーザ設定が変更された場合、その変更は、ユーザ (マネージャまたはアシスタント) が Cisco IPMA からログアウトし、もう一度ログインするまで実施されません。

追加情報

[P.2-38 の「関連項目」](#) を参照してください。

アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定

次の項目を設定するには、End User Configuration ウィンドウの Cisco IPMA Assistant Configuration を使用します。

- アシスタントの電話機のデバイス名。
- アシスタントがマネージャ宛のコールの応答に使用するインターコム回線 (オプション)。
- コールを発信するプライマリ回線 (オプション)。
- マネージャ、マネージャ名、およびマネージャの回線に関連付けられている、アシスタントの電話機のプロキシ回線。たとえば、アシスタントの電話回線 3 を、マネージャ Mary Smith の電話回線 2 への応答に使用します。

プロキシ回線には、アシスタントの Cisco IP Phone に表示される電話回線を指定します。Cisco IPMA は、マネージャ (たとえば、manager1 など) 宛のコールを、プロキシ回線を使用して管理します。コール ルーティング ソフトウェアが、manager1 がコールを受信できないため、コールをアシスタントに送信することを決定した場合、コールはアシスタントの Cisco IP Phone 上に設定された、manager1 用のプロキシ回線にルーティングされます。

プロキシ回線として機能するアシスタントの電話機で回線を手動で設定したり、自動設定を使用して電話番号の生成およびアシスタントの電話機に回線を追加できます。

共有回線モードでの Cisco IPMA の共有回線とインターコム回線の設定については、[P.3-21 の「アシスタントの共有回線と着信インターコム回線の設定」](#) を参照してください。

アシスタントの IPMA 情報を表示する場合、システムは IPMA サービス パラメータのエントリに基づいて Proxy Directory Number Range セクションおよび Proxy Directory Prefix セクションに電話番号を生成します。サービス パラメータの詳細については、P.2-21 の「Cisco IPMA のサービス パラメータの設定」を参照してください。

アシスタントのプロキシ回線表示と着信インターコム回線表示を設定するには、次の手順に従います。新しいユーザの設定については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの追加」を参照してください。



ヒント

アシスタントの Cisco IPMA 情報を設定する前に、Cisco IPMA マネージャの情報を設定し、マネージャにアシスタントを割り当てる必要があります。P.2-28 の「プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て」を参照してください。

始める前に

アシスタントの電話機でプロキシ回線を自動設定する場合、Proxy Directory Number Range セクションおよび Proxy Directory Number Prefix セクションの IPMA サービス パラメータを設定します。

手順

- ステップ 1** アシスタントに対して IPMA を設定し、プロキシ回線と着信インターコム回線を割り当てるには、**User Management > End User** を選択します。
- ステップ 2** IPMA アシスタントにするユーザを検索するには、**Find** ボタンをクリックするか、**Search Options** フィールドにユーザ名を入力して **Find** ボタンをクリックします。
- ステップ 3** 選択されたアシスタントのユーザ情報を表示するには、ユーザ名をクリックします。
End User Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** アシスタントの IPMA 情報を設定するには、**Related Links** ドロップダウン リスト ボックスから **Cisco IPMA Assistant** を選択し、**Go** をクリックします。
Cisco IPMA Assistant IPMA Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** Device Name 選択ボックスで、アシスタントに関連付けるデバイス名を選択します。
- ステップ 6** Intercom Line Appearance 選択ボックスで、アシスタントの着信インターコム回線表示を選択します。
- ステップ 7** Manager Association to Assistant Line 領域にある選択ボックスを使用して、マネージャの回線番号をアシスタントの回線番号に割り当て、関連付けを行います。
- ステップ 8** Available Lines 選択ボックスで、アシスタントの回線を選択します。自動生成されたプロキシ回線の前に「Auto」と表示されます。Cisco CallManager を使用して、アシスタントの電話機で自動生成されたプロキシ回線を作成する場合、自動生成されたプロキシ回線を選択して、**Automatic Configuration** チェックボックスがオンになっていることを確認します。



(注) Automatic Configuration チェックボックスがオンの場合、Cisco IPMA サービス パラメータの設定に基づき、既存のプロキシ回線およびインターコム回線用のコーリング サーチ スペースおよびパーティションと同様に、システムが自動的にソフトキー テンプレートを設定します。また、システムはインターコム回線用のスピーカフォンを使用した自動応答を設定します。

ステップ 9 Manager Name 選択ボックスで、このプロキシ回線を適用するマネージャを選択します。

ステップ 10 Manager Line 選択ボックスで、このプロキシ回線を適用するマネージャの回線を選択します。

ステップ 11 Save ボタンをクリックします。

更新した内容は、すぐに適用されます。自動登録を選択している場合、アシスタント デバイスは自動的にリセットされます。

追加情報

P.2-38 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アシスタントの Cisco IPMA 情報の削除

アシスタントの Cisco IPMA 情報を削除するには、次の手順に従います。アシスタントの IPMA 以外の情報の削除については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの追加」を参照してください。

手順

ステップ 1 IPMA 情報を削除するアシスタントを検索するには、Cisco CallManager Administration で、**User Management > End User** を選択します。

ステップ 2 Find and List Users ウィンドウで **Find** ボタンをクリックするか、Search Options フィールドにユーザ名を入力して **Find** ボタンをクリックします。

設定されているユーザのリストが表示されます。

ステップ 3 Cisco IPMA 情報を削除するアシスタントを選択します。

ステップ 4 Related Links ドロップダウンリストボックスで **Cisco IPMA Assistant** をクリックします。

Cisco IPMA Assistant Configuration ウィンドウが表示され、IPMA アシスタントの設定情報が表示されます。

ステップ 5 Delete ボタンをクリックします。

更新した内容は、すぐに適用されます。



(注) 名前、ユーザ ロケール、PIN など、IPMA 以外のユーザ設定が変更された場合、その変更は、ユーザ（マネージャまたはアシスタント）が Cisco IPMA からログアウトし、もう一度ログインするまで実施されません。

追加情報

P.2-38 の「関連項目」を参照してください。

アシスタントの Cisco IPMA 設定の更新

アシスタントの Cisco IPMA 情報を更新するには、次の手順に従います。アシスタントの IPMA 以外の情報の更新については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの追加」を参照してください。

手順

- ステップ 1** IPMA 情報を更新するアシスタントを検索するには、Cisco CallManager Administration で、**User Management > End User** を選択します。
- ステップ 2** Find and List Users ウィンドウで **Find** ボタンをクリックするか、Search Options フィールドにユーザ名を入力して **Find** ボタンをクリックします。
- 設定されているユーザのリストが表示されます。
- ステップ 3** Cisco IPMA 情報を更新するマネージャを選択します。
- ステップ 4** Related Links ドロップダウンリスト ボックスで **Cisco IPMA Assistant** をクリックします。
- Cisco IPMA Assistant Configuration ウィンドウが表示され、IPMA アシスタントの設定情報が表示されます。
- ステップ 5** デバイス名、インターコム回線、マネージャ関連付け情報など、変更対象の情報を更新します。



(注) **Automatic Configuration** チェックボックスがオンの場合、システムがソフトキー テンプレートを自動的に設定して、IPMA が制御する選択された回線およびインターコム回線用の IPMA phone サービス、コーリング サービス スペースおよびパーティション、および IPMA サービス パラメータに基づいたマネージャの電話機用のインターコム回線用スピーカフォンを使用した自動応答を登録します。

- ステップ 6** **Save** ボタンをクリックします。
- 更新した内容は、すぐに適用されます。



(注)

名前、ユーザ ロケール、PIN など、IPMA 以外のユーザ設定が変更された場合、その変更は、ユーザ（マネージャまたはアシスタント）が Cisco IPMA からログアウトし、もう一度ログインするまで実施されません。

追加情報

P.2-38 の「関連項目」を参照してください。

ダイヤル規則の設定

管理者は、ダイヤル規則設定を使用して、ダイヤル規則の優先順位を追加およびソートできます。Cisco IPMA のダイヤル規則は、アシスタントが Assistant Console のディレクトリ検索ウィンドウからダイヤルする電話番号に対して数字を自動的に除去したり追加したりします。たとえば、7 桁の電話番号の先頭に、外線発信用の数字 9 を自動的に追加します。

次の各項では、アプリケーション ダイヤル規則の追加情報を示します。

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ダイヤル規則設定の設計」
- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「アプリケーション ダイヤル規則設定のエラー チェック」

Cisco IPMA のマネージャおよびアシスタントへの情報提供

URL にアクセスして、Cisco IPMA の Assistant Console アプリケーションをインストールします。管理者は、P.2-36 の「Assistant Console アプリケーションのインストール」に示す URL をアシスタントに通知します。



(注) Assistant Console アプリケーションのインストール プログラムでは、Netscape 7.1 以降および Microsoft Internet Explorer 6.0 以降をサポートしています。

Assistant Console アプリケーションのインストール



(注) Cisco CallManager Release 4.0 または 4.1 から Release 5.0 にアップグレードした場合は、Assistant Console アプリケーションを再インストールする必要があります。

インストールを開始するには、次の URL にアクセスします。

`https://<IPMA サーバ>:8443/ma/Install/IPMAConsoleInstall.jsp`

変数の意味は、次のとおりです。

IPMA サーバには、IPMA サービスを実行しているサーバの IP アドレスを指定します。



ヒント

インストーラは、適切なローカリゼーションパックが添付されている場合、URL に適切なパラメータを含めることでローカライズできます。たとえばフランス語を使用する場合には、URL の末尾に `?locale=fr_FR` というパラメータを付加します。

Assistant Console ダイアログ オプション

アシスタント コンソールには、次のオプションを含むダイアログが表示されます。

- **Location to Install** : Assistant Console ソフトウェアのインストール先となるディレクトリのパス。デフォルトでは、次のパスが指定されます。
`c:\Program Files\Cisco\IPMA Assistant Console\`
- **Create Desktop Shortcut** : デフォルト値は True。このパラメータは、アシスタント コンソールでショートカットを作成するかどうかを指定します。
- **Create StartMenu Shortcut** : デフォルト値は True。このパラメータによって、Start メニュー (**Start > Programs > Cisco IPMA > IPMA Assistant Console**) にショートカットを作成するかどうかが決まります。
- **Install JRE** : デフォルト値は True。このパラメータによって、IPMA アシスタント コンソールとともに JRE をインストールするかどうかを指定します。このオプションをオフにする場合は、アシスタント コンソールで次の設定が必要です。
 - アシスタント コンソールへの JRE 1.4.2_05 (国際バージョン) のインストール
 - アシスタント コンソールでの環境変数 IPMA_JRE の作成 (この環境変数は JRE へのパス (たとえば、`c:\Program Files\Java\j2re1.4.2_05`) を示します)

マネージャの設定

マネージャは、次の URL を使用して、Manager Configuration ウィンドウで機能の個人用設定をカスタマイズできます。

`https://<IPMA サーバ>:8443/ma/desktop/maLogin.jsp`

変数の意味は、次のとおりです。

IPMA サーバには、Cisco IPMA サービスを実行しているサーバの IP アドレスを指定します。



(注) Manager Configuration では、Microsoft Internet Explorer 6.0 以降のみをサポートしています。

管理者は、この URL をマネージャに通知する必要があります。

追加情報

P.2-38 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- 『Cisco CallManager システム ガイド』の「ソフトキー テンプレート」
- 共有回線サポートのある Cisco IP Manager Assistant
- Cisco IPMA サービス (P.2-3)
- Cisco IP Phone のインターフェイス (P.2-5)
- Cisco IPMA Configuration Wizard (P.2-15)
- Cisco IP Phone サービス設定 (P.2-23)
- マネージャおよびアシスタント以外の電話機 (P.2-27)
- プロキシ回線モード用のマネージャの設定とアシスタントの割り当て (P.2-28)
- マネージャの Cisco IPMA 情報の削除 (P.2-30)
- マネージャの Cisco IPMA 設定の更新 (P.2-30)
- アシスタントのプロキシ回線、着信インターコム回線、およびプライマリ回線の設定 (P.2-31)
- アシスタントの Cisco IPMA 情報の削除 (P.2-33)
- 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザの追加」
- 『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』の「エンドユーザとデバイスとの関連付け」

その他のシスコ マニュアル

- Cisco IP Manager Assistant ユーザ ガイド
- Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド
- Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド
- Cisco CallManager Serviceability システム ガイド
- Cisco CallManager Bulk Administration Tool ユーザ ガイド
- Cisco CallManager セキュリティ ガイド